

(3) 自分が確かに伸びていると感じられる学びを実現させる。

◆「学び手としての力^{※1}」を伸ばす授業づくりの推進

- ・一人一人の考え方等を引き出し、互いに味わう授業づくり
- ・自らの「目当て」を意識し、真摯に振り返ることのできる授業づくり
- ・粘り強く誠実に取り組む学習の重視
- ・心地よい緊張感のある授業づくり
- ・自らの考え方を率直に述べ、聞き合い、新たに見つけ出すことのできる授業づくり
- ・書くことなどを通し、考えを練り上げる学びの実現
- ・気づくこと、話すこと、書くこと等を中心とした活動の充実 等

◆授業づくりを支援する研究・研修体制の強化

◆「あるべき学びのすがた」を追究する授業研究の日常化

(4) たくましいからだと豊かなこころを育む教育を充実させる。

◆道徳教育の推進

- ・「わたしたちの道徳」の効果的な活用
- ・道徳教育推進教師を中心とした組織的計画的な道徳教育の推進
- ・体験活動の重視

◆音楽、とりわけ合唱による表現意欲の向上

- ・聞き手に届く表現活動の充実と感動の共有

◆図画工作科における創作活動の推進

- ・創作活動の充実と互いに味わい合う活動の推進

◆体育科における学習の充実

- ・健全な体づくりによる、落ち着きと積極性の育成
- ・体を使った表現の充実と、互いによさを味わう学習活動の推進

※1 豊かに気づき、考えを持つ力、誠実に真摯に取り組む力、よく聴く力、書いて考える力、自らの目当てと方法を意識しがんばり続ける力等、自ら学ぶ力を指す。学習者としての資質・能力。

第5 いじめの早期発見

1 方向性

学校生活や家庭生活等で日常的に起きる様々な誤解、行き違い、トラブル、けんか等が拡大し、いじめにつながることを防ぐには、「第4 いじめの未然防止」の内容を基本に、いつでも、どこでも、だれにでもいじめが起こりうるものであるとの認識を持つことが重要である。いじめは、遊びやふざけの中に隠れていたり、大人の見えにくいところで行われたりしていることも多い。これらの認識に立ち、緊張感を持って児童に接することが重要である。